

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)	◎	一般レストラン (統括)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症が拡大したが、国からの行動制限がないため客の行動は活発である。
	○	一般小売店〔鮮魚〕 (役員)	お客様の様子	・観光客が徐々に増加しており、観光地の売上は回復傾向にある。
	○	コンビニ(店 長)	単価の動き	・売上総額で見れば、新型コロナウイルス感染症発生前近くまで回復している。その主な理由は商品単価の上昇によるもので、1人当たりの買上単価は数年前と比べて100円近く上昇している。その一方で来客数は変化がないか、むしろ減少している。売上が増加しても、経費や仕入額はそれ以上に増加しているため、仕入れ等の原価率は悪化しており、利益は減少している。経営者としては極めて厳しい経営状況である。この状況を良くなっていると判断するかは疑問である。
	○	自動車備品販売 店(役員)	販売量の動き	・9月から冬用タイヤが値上げされるため、今年は例年以上に問合せが多く、販売数量も大幅に増加している。先行きを心配しての購入かもしれないが、必要品は少しでも安い価格で購入を希望する客が多い。しかし、性能重視で価格の高い商品を選ぶ傾向も強くなっている。
	○	観光型旅館(経 営者)	販売量の動き	・夏の繁忙期に豪雨による交通網の寸断があったが、ファミリー層を中心とした宿泊客により、売上は新型コロナウイルス感染症発生前の8割まで回復してきている。
	□	商店街(代表 者)	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症第7波の影響で引き続き入客は低調である。ラグジュアリー関係はいまだに好調とのことで、どのような動きをするか注目している。行政の支援策は飲食業に対してばかりのように見える。行動制限がないとはいえ衣料品等の業種も厳しいため、何か良い支援策がないか思案している。
	□	一般小売店〔精 肉〕(店長)	販売量の動き	・3か月前からの落ち込みが継続している。
	□	一般小売店〔書 籍〕(従業員)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりの状態にあり、経済活動は良くなりそうにみえて、それほど変わらない状況が続いている。
	□	百貨店(売場主 任)	来客数の動き	・前年は8～9月にまん延防止等重点措置が適用されていた。今年はその反動からラグジュアリーブランドを中心に高額品が好調に推移している。観光客も回復基調で街全体がにぎわっているが、それでも店全体の売上は2019年との比較では約10%減少の見込みである。
	□	スーパー(店 長)	販売量の動き	・買上点数に変化はみられない。
	□	スーパー(総務 担当)	それ以外	・最低賃金が上がったことでパートなど収入が増加する人もいるが、社員の給与が上がるわけではなく冬のボーナスは望めない。さらに、水害等で多くの被害が出ており、新型コロナウイルス感染症が収まったとしても、大きな経済効果はみられないと考える。
	□	スーパー(統 括)	お客様の様子	・今年のお盆期間は帰省する人の数が増加したが、一定期間の影響であり大幅な変化ではないと考える。
	□	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・明るい兆しがみえたかと思ったが、新型コロナウイルス感染症第7波の影響が色濃く出ており、売上は前年同月と比べてマイナスのときもある。
	□	家電量販店(本 部)	販売量の動き	・前年に売上の悪かったエアコンが好調にみえるが、全体的には厳しい状況が継続している。
	□	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・メーカーからの新車納入に時間が掛かる状態は以前と変わらず、販売量の確保が困難な状態が続いている。
□	その他小売 〔ショッピング センター〕(統 括)	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症第7波の影響は軽微だったが、旅行や外出などの需要は新型コロナウイルス感染症発生前の水準まで回復していない。お盆期間は帰省客が多かったが、セール品等の動きが中心で定価品の買上率は低くなっている。	

□	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・売上は前年同月比で163%だが、新型コロナウイルス感染症発生前との比較では69%であり、回復したとはいえ状況が続いている。
□	通信会社（職員）	お客様の様子	・客の反応には変化がなく、良いとも悪いともいえない状態である。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・当社サービスにおける新規客の獲得に苦戦が続いている。さらに、電子機器等の仕入価格の値上げも続いている状態である。
□	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、施設利用客に再び自粛傾向が出てきている。また、スタッフにおける新型コロナウイルスへの感染や濃厚接触者認定で現場離脱が頻繁に起き、スクールのクローズやスタッフ派遣を縮小せざるを得ない状況が続いている。その分の売上が減少するため大変厳しい状況である。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が1000人を超える日が続いているが、客はこの状況に慣れてしまったのか、来客数は落ち込んでいない。
▲	一般小売店〔事務用品〕（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加し、来客数が減少している。
▲	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・前年はまん延防止等重点措置が適用されていたため比較しにくいですが、8月11～16日のお盆期間中は、帰省客による土産の購入や家族の集いの準備などの需要が伸び、食品やレストランを中心に売上が前年を5～10%上回った。また、帰省用の寝具等も新型コロナウイルス感染症発生前の2019年に近い売上となった。しかし、お盆明けは新型コロナウイルス感染症が拡大するにつれ、来客数、売上共に高齢者を中心に鈍化傾向にある。
▲	百貨店（販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加と猛暑の影響か、セール後の7月末頃から来客数がやや減少している。また、大雨など災害の多発も悪化の一因とみている。今年の夏休みは外出制限がないため旅行需要を期待したが、外出や帰省した客による購買行動は食品などの土産以外にはつながらず、大きな増加にはならない。しかし、新しい物への反応はあり、新鮮な物や目新しい物には購買行動を起こす傾向がみられる。
▲	スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・値上げによる買上点数の減少が顕著である。値上げした商品群の買上点数が特に悪化している。
▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大と猛暑が重なり、来客数に影響が出ている。
▲	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・新型コロナウイルス感染症や、水害等の自然災害が頻発し消費マインドが落ちている。
▲	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・現在も新車生産の遅れが続いている。本来なら新型車のモデルチェンジ展示会が行われ来店客でにぎわうはずが、実車が店頭には並ばず寂しいショールームとなっている。納期の長期化が定着して客の購買意欲にも影響が出ており、商談も盛り上がらない。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・3か月前はまん延防止等重点措置が解除された直後で、5月は過去7年間で最高の来客数であったことから、当月は5月と比べると厳しい状況が続いている。
▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が増加しているため、非常に厳しい月となっている。付近の店舗も閉店時間が以前より早くなっており、当店の常連客に電話で案内をしても、身辺で新型コロナウイルスへの感染者が出ているため外出を自粛しているという返事が多く、大変悪い状態である。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が第7波に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が連日2000人前後で推移している。行動制限はないが週末の観光客は若干減少しており、夜の繁華街の人もやや減少している。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・お盆が明けてから、夜の繁華街は以前より更に静かになっている。
▲	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・新商品の発売待ちや半導体不足による在庫不足で、販売数が伸び悩んでいる。

	▲	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信サービスは新規契約の獲得が順調で、契約者数が前年同月を上回っているが、放送サービスは前年同月を下回っている。また、解約数が前年より増加している。
	▲	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の拡大と新規感染者数の高止まりにより、行動制限はないものの、全体的に人の動きが鈍くなりつつある。さらに、エネルギー価格を始めとした物価上昇の影響もあり、景気は悪い状態にあると考える。
	▲	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・客の予算が厳しくなっており、所得水準が高くて高級路線ではなく中級クラスの商品を選択するが多い。また、イベントの来場者数も減少しており、厳しい状況が続く気配である。
	▲	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・建築資材の高騰による住宅価格の上昇だけでなく、食品や生活用品を含めた物価上昇の影響で客は様子見の状況であり、消費者の購入意欲の減少を感じる。
	▲	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・建築資材の価格が安定しない。
	▲	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・悪天候の影響もあるため一概にはいえないが、展示場の来場者数の低迷が続いている。前年比で8割程度の状態が続き、7月は更に落ち込んでいる。
	×	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街から高齢者の姿が消えて久しい。客の購買意欲は薄れ、買物は必要最低限のものだけである。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・ウィズコロナの新しい時代に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増するなかでも人通りの激減は避けられた。しかし、お盆の繁忙時に天候に恵まれず、特急列車の運行が休止したりしたため、売上を伸ばすことができなかった。客層の中心が若年層やファミリー層であるため、買上単価の平均も低くなっている。
	×	スーパー（店舗管理）	販売量の動き	・値上げの影響を考慮しても、来客数に対して買上点数が少ない状態である。ついで買いが確実に減少している。
	×	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症のまん延に加え、お盆期間には豪雨で高速道路が通行止めとなり、繁忙期の帰省客需要は大きなダメージを受けている。
	×	家電量販店（店長）	販売量の動き	・豪雨などにより客足が遠のき、夏物家電も売上不振となっている。
	×	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・生活用品や食品、原油などの値上げに加え、新型コロナウイルス感染症第7波による感染拡大が影響している。さらに、夏休みが重なり、支出が旅行や外食産業へ向いていることも販売量が悪くなっている要因として考えられる。
	×	その他専門店 [酒]（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の拡大やその長期化、物価の上昇、円安など様々な要因が絡んで最悪の状態になっている。
	×	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症第7波により、宴会のキャンセルが出ている。レストランの来客数も減少しているが、これはメニューの値上げも影響していると考えられる。
	×	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・団体旅行客のキャンセルが続出している。
企業 動向 関連 (北陸)	◎	—	—	—
	○	金融業（融資担当）	それ以外	・行動制限がない夏休みでイベントや観光が活発化し、繁華街やショッピングモールも人出がかなり増加している。
	○	税理士（所長）	取引先の様子	・建築業は少し厳しくなってきたが、土木工事業や設備工事等を含めて建設関係は需要が安定しており、問題は材料の調達だけである。製造業は困難だった材料の調達が回復してきたようである。経営者は潜在的な受注は多いという手応えを持っており、製造業や工事業では、景気は間違いなく上昇傾向にあると考える。
	□	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在の受注は変わらずに推移している。

	□	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染再拡大に加え、半導体不足やウクライナ情勢の長期化に伴う供給制限、物流費や原材料費などの高騰の影響が大きく、引き続き厳しい状況が続いている。
	□	精密機械器具製造業（財務担当）	受注量や販売量の動き	・6～7月は受注量がやや上向きになったが、8月はまた下向きになり、3か月前と同じ水準に戻っている。
	□	輸送業（役員）	受注量や販売量の動き	・燃料サーチャージへの対応や、基本運賃の交渉が厳しい状態である。
	□	輸送業（管理会計担当）	受注量や販売量の動き	・7月は物量が減少気味であったが8月は回復傾向にある。しかし、本格的な回復には至っていない。
	□	通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・現在のIT関連補助金等施策は働き方関連のソフトが対象となっており、ハード商材の補助金がほとんどないため売上が上がらない状況である。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者からも、良い話は聞くことができない。
	□	司法書士	取引先の様子	・取引先における建設業許可の工事高をみると前年より増加しているが、新規案件は建築費高騰の影響のせいか、件数が少ないようである。
	▲	食料品製造業（経営企画）	それ以外	・原材料や包装資材、設備関係を始めコストアップ要因だらけで、製品の原価が上昇し続けている。販売量は何とか維持できているが、製品価格の値上げなくして、経営は成り立たなくなっている。
	▲	繊維工業（総括）	受注価格や販売価格の動き	・受注は引き続き堅調であるが、原材料価格の高騰に拍車がかかっており、収益環境が一層厳しくなっている。
	▲	一般機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注量は堅調に推移しているが、資材が高騰する一方で販売価格を十分に上げることができず、利益率を悪化させている。
	▲	建設業（経営者）	それ以外	・今年6月に終了した前期決算は、過去最高の売上と高利益を上げた。しかし、現状は不採算の大型工事を抱えており、今期は役員ボーナスが無支給になる可能性が出ている。
	×	—	—	—
雇用関連	◎	—	—	—
(北陸)	○	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染症と、ウクライナ侵攻の影響について言及する派遣先企業が少なくなっている。また、物流関係の企業を中心に求人依頼が増加している。
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数は増加傾向にあり、雇用機会が増えている。
	○	新聞社〔求人広告〕（営業）	それ以外	・イベントが開催されるようになり、活気が出てきたようにみえる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数に大きな違いはみられない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・半導体不足の影響により自動車ディーラーの広告は延期が続いているため不安定な印象を受ける。一方で新型コロナウイルス感染症は収束する気配がないにもかかわらず、イベントの中止は少なくにぎわい創出事業も回復してきている。不動産広告などは復調しており、トータルでは横ばいといったところである。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年同月と比べて増加が続いていたが、8月の求人数は前年同月とほぼ同数である。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・新型コロナウイルス感染症第7波で新規感染者数の増加が続き、求人の動きが鈍化している。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—